KODAK Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

12
881
56

宮内省図書寮

浮舟

宇治十帖第七

巻の名ありとてとりて書きけるとぞ

橋の小島の崎もとこぎ行くあぜろの網代

元

なほ世に六条の院より三月をとこれるまうり

なほ世にまうのまうあるべし

宮にたてまつるのほどのうるはしさ

白雲やほのぼのたなびきて浮舟のうきもとくるかなしさ

御ことくさ人あまくハるれとも宮なりしを

人々のまめやかにゆかしがりて

世心にはかりてやみぬ

まめやかに

行くへもしらぬ水のうきまくり

女房ともうらもとれをきゝ

ゆへあるうちふるまひと

ちの花ゆくえしらずなり　　深あれるゆへ中そんとを

花ゆくえしらずなりや

たそかれの心ぞとまつめ恋ぞ行くへいとをる

しらてそのまくあやぞまてまつと思はせと

見を深あれるゆへ白にくしらをとをしらをり

さと中そんとをとをつめ行や

やんことなきたちあはもてなす行ひさをれと流をる

あくあうにぞくめてんのうくしとをぞ行をるんと思い

ひたうをくゆのくしをてくんあをさてさくをくをつへさ

たんさ後ゆをはくさめつと　　墓の角んとをををさ

まふをくしをつひとををうをひとくめて宇治よりく

しとをくををつをを紙函思ひひをうををくをいくをんを

ををと思をくをくしをや

さくをくんの中あををくをうを物ををの行ひふまをんと

物用くさちあをうをくをとはたるまくを光雲まをてを雲さ

ちををつはさ後をくをぬ沸かををたるに　　白のる

をを中そんれの行ををつるるや

さをくをと月日紙をて物ほくをんをあるあるとハ

うさあつまや

まくをてうをくはをくをあるをうをを行ひをてんは

うをうをはくんの行をんんいうくはをんんんくをはくをり

ををくとゆくをををくををををををくををををくんつはん

をを孫をを後をくを孫をををの我をのんをくをををくをくをる

とをくをくをて笑ゆくを　　うを舟のをあいてとわく

ををくをのくてををあくはをくををくををくをくををくをそ

牛そをを安あくをくんとや

とてもかく命もかゝるみなくかまてそこるゝそ
しのふひとし行ひて　とにかくふ露わやまち
みちもとまりしきとや
いとわしかりくえかれし心て絡ちにちゝにつきは
きし色かへるひとの行方もちとしこめて物えんし
志る為常此人有りて其物あり
うき舟のすをとこにはおしくそえい
ひるし行方もそのすへとも志しこめて露く
物うし心かる人のあり行して中元此まゝはるゝや
彼人をそことし人なくのとかに物川しとゝまてしまちと
とありやそらんと心くるし色のき思ゆり給ある
流せきうき此給をわら人きはりてあしてかやかくうよ
ひ絡へき尽まうねそ　彼人　無のゝすゝや

神のいさむるすゝきをかりあし路連と今いとるを
てあらんとは
宜つくゝはそてとをすいちかや萬神乃いさむる尽あるにたくに
恋ゝと神をいさめとそぬと神のいさめ給えんより
をとなとなくそや心さめとせぬ神といさしめた
あして神のいさめ給よりとこうとあしとありて　武
あかとゑて面白く書るしたり
山里此なくさめ也とふひともあてしんあるを
舟をとゝ山里すて乃り給の慰とふ給られたより　武浮
あまく物くるとや
もろし白穀をゐぬへきるうをはくり心て哀のとや
えゆきてをりん　宇治へ渡く白穀せとを　遂翁
有へきる京あくはくるを出して進りたんして

まくら給へんとや
ちゝくさりし京人のきぬましきさまを取しる事 ゆき
ても見んと云事は宇治のおもやさてさりしかひ
との志のましむ住吉してとは京ようく道乃須磨
ありしくくうき舟の心との人さき見れとみそうに
はくのをすへりひさそうれぬやうなせんとや
やうくちうらの心をとものとめをおなわう乎とめつ
をと人乃もとおなおるまし事をあのめあはくこそよろくめ
みそらに奉ふくそ前よりおもとさくとうあつまんをも
まのさせうし見えし君乃心ありき乎ふへし又京の御さ
乃こき御ほさんともものとゝうきさくしく
おそもれ道苦を云道乃おもんをいと須はたなし
あと御ほし志ゆしもをまいのれとあさすゐあるは

人のうちすゑへしよそは人は雨もりしまうまて忍ひ
てはくら給ひあるすゝしいとうなるをやうにをもな
里に給ひたれと京の御かたふたなるをゆきをくく
心よもを給うまうつ給ふおやうなうり見まゐ人
をおやしきさまてとへ道を　宮乃御さ
中君れるすやもとの雲の帰君乃心ともあり　光中
見えり黒乃かうをも心よもを給とや　中君のんも
世中をやうく御ほし志るを
人乃宿様を見んたまうに笔して八月たに苦をと云也
うろたるさ乃おはさんおもうくぬ乎とめしなあれや
哀をもくなうくは給ひて御乃給まうに人ゝうをお
はくをさ海てとにもの給へも京の御ん乃おまりなめの
まうけるをとさくはきをはすり前るもくせられた古稀

君のおほしなまめてしまへにもわたりてうく物さりし
かくきこゆるもきるもそめなんするとおもほえおり
おりおりはらんされとこそはめんし給ふなるかくし
とし月もおほくの君若きを陽ゆくうちふくれはみなきとなる
うちてぬ人のなを紙くしきたりてそれさきかくもの
ゆかりきてたりむつひともてもきぬよはなくし
なれ

年月宮仕かくなき中将の君はむつひとを
新なる人しそおましにあつかるもの有りし紀てけを
志らぬ人もいそくしきあく人のゆかりもたしとめ
きこゆるやうなる事もなるや
あそひうらふるもあるにまいりよたのひあるを悩て
なをいひ思ふんとはまし給れも父のこと物かな
しりてかくひとるにいまくて給ひかり月しまくらかり給

てさへのつらうときこえ給ふにおりゆくをとゝめつとてもた
えはおほしかのかうをとかくぬるなりけりや
中将八宮の御むすめにいひよりてぬゆきとも
薫をおほし心りなりぬとも
父もおはしたる法師にてそのなかに紀ゆしをまいれと
かの君かいとうけしきおもはるを給ますに形見のあはれ人
を思ふまじききこえやと思ひと給ふ紀伊守のよおほしてう
ちとけもきこえしさかつにたくへりまゐりてまたくもたるを
紀人も宿りまゐり八すまし物思ひ志つかまりてさらくし
給ふ也月のはつかき文あるなりかへるを給て
中将八宮のおもひきるを給
かの君のはとしそさると給へるをきてあつてひかへりくし
月給ひかへるちいさき紀かりてみとるやらすなる

はしめ文のおほきやうなるにちいさきまとひけることかけり
つけたる文をかくしおきてふところへ
花ちりあると花つけたる文をたてまつるをとれやうなる
歌文イのを鷹狩みくはしむすめ也嫁娶の後朝録
出営包文也表包やう旧記ありとみえたりまとく
しきさやかく文あるをそへてわかなくちるをまゐる
とみしありたて文包文二様ありとみえたるを
おかなくちるをまゐる　　源氏物語なとなくをそへて
ある絵也
女こそにたまれハ文をまいらせハいくらりそかのよりへもいう
治よりをかへゆかのおとくにとて　　宮おく也ハ展とも
文也展をおとく也よめり
まてまつくひ給へるをまいのわかまへみくそ沸くらん

せんとそとるを給ぬる也いつも折たくしきさ気念よ
て　うちらのはうひうまちまてくひあるる紙中丸
君もり見んを表るせんとそて見てきたるとも
このこころひとはくまくてうとるをたるこありけるを
とりはさあることものこるすや
松を花とよりてはくるをたるえくさそ也思くそひつ
つくれをえ文を花をくひ給てかそ秋をまてちやしてん
とあれを女君いをかさかくゆく地同しあ文をさゆ
るを函まとの絵ふ　　中君のとりつまかまちるにの絵也
源りかわくされしえ文大将乃ちりまそくまうした
歌文みやうちれ不のりを花はさくしたとおほりまり
て　　中君を墓ハ宮治よりるりたるたるもうひまれ也
心さ文をとうの絵さとうにきれまかく時よ也おほもを

うりてとまさ姫をあけてかんうあんこやしゐさ
ひとも家との行へハかうかうの女ともれ
なるに行ろうしあしんうちをあこと法行せ
んとの行ふうさしうぬるしまるれしさしかんよ女
のえうこしかうこうこうあけ行へまこいとうやう
なるもあくあかりるくて　えの河や
やしもこれ行ていあ山里ついきさしこそこのの
扇もそこしさるくてとてしにこれうこやかの神
まつりあやしう侍めまこくうれこうと
山里のさひしさやこうるや　岸の扇とやうく
あこうなくてさひしこさや
みとにらうくしさあやしをかこねと　うれ舟れ
えうとふ上鶴しさあをなうしとや

ぬるこうれとはめたてあ　作こもあるこれなれ
すとめとそそくかう行ふとや
こうあてえとかう行くこあふ女のてあくこしあうあ
まりてるふとうこうこあこうこしふをいうふたの
さはうこうあるこひぬくく侍ふん　年れ始るれいこひとや
家あはいてあてたあはこうあのんあうこさと行ふさ
こうこうこかあう　めてたあはこうこ年れ行ふ
さあれとこうこてこうれとや
ぬくこあのこはくくとなうめさを行うこいうれくこさ
たり年こせ行くは心をうくさあこうれのあとと侍ふり
はくまくゆそうこさあよやはしとよ　てうんあう
さこうにあけうを行あう　あうこ白えのうるる
こさはこくくうこさとや

わらはの行まへよりてうちゑまるせめて　正月ころ
和日はちをはくつてていもひるにうぶすはな
つとそのまゝや
ゆはさはまへのはちんせちんはちんさをはな
をとてちんうはくとまといをえゝあつを　白梅
のはちんせちんはちんはゑまるせはんとや
をのまけゝゝあをはちをのうくゝをまをとうち
うゝゝゝあやゝゝとはゑまゝゝてとはのはへゝををを
のはへをもむゝれはをはををのをををををはをををを
ありてはをゝゝをはをとをんをはゝとはをゝはへを
をゝをつくはをまをるをはをををををををををはは
をはをへををををををををををををををををををを
をれををゝゝををゝゝあをををををををををををを

はちはゝゝをはをゝくなるをあるをへのををををを
をゝを　はをををゝをゝをををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
はゝゝはをををををををををををををををををを
ををををゝををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを

きこゆらんとよめるも浮舟の君をやまさるらう　叔姪
かくし井此君の下かをも御さきかれハ良まさむしせさせハらけ
せうとも御志となりぬとのとひかうあるひとの母やとおほ
おもはぬ方にゆめとおもひてなくなく御人情あるらう
いかなる人と文母ともかくさめのかたと御気色のけ
しるまうるとたんまして又ち給ぬ女君お待ちと
して　中君のめしけるをお待と云る事や
いと思ふくもみつる事　文と匂兄宮ひし浮
舟のたよりといとをしくもみつるなれとや
思さるゝは人のかたとつくんとをそひいてみ給ひはれそ
事とも思ひくの給　思さるゝ比其のことゝもゆくゑ
そこにみつるを見給ひつるなれと中君の給や　そこれ女房
見給へましかはいかにてうへ気しけなりし

右の云るけや
またくけ子ハこうちうらふ給ひもくしてゆかりあるハさ比
見るにて人を思ひ給ふにてそ思ひしられ方となくめ
しあるなうあおもさるゝ比人方ものにてそその給
かるの内ハ人をとせいとる詞をかうし侍しなき云
心やをりし申て思ひとは白家人への気ずせていと御
しく給ひてなみれたるや
まそのうへの気しせたるこゝろへの御そいとう川くし
ろう名れハ家ともうらそくせさる給ひあるらけりも家にも
くるに思ひもしゆきて　白家ハいつもはかうしるも給ハ
うちハに思ひつゝまりてや
おやしうとも思ふ所つらせ給のうひあらすかにくし
こゝろうそとも人と申ちらハ人をも思ひのかくる所は時

をあり中人のみのをとてとあまりうまれ六のうちんと
てゐるまゝさ所よ指ものしゝ給てんことやをこはるゝ
くやうゝんくしとぶ行つるなるへしとおもふ給う給
るもとゝろくゐるへのことにはけてつうひゝ
（他文ノ一）
愛問ゐるもよつまてあこあとあてを給所よあ
されたる大内記也式ゐ所無てるみちたるを
名案をるゝ一トに乃てしあり
大内記なるへの彼屋うゝをくふたゝうあるとゝ所は　大内記ハ蓋の
しいそく始まへよめを第うちゝ
宮内よある大蔵少輔ゐのみとをものくむこをを
と編みて実録也
みんゝをまをすつをに集ゝをとをうゝ出くこゐをさな所
はゝよつもへさをとおとの給ゐをて　第みをも

多ものをけ中也
大大内のうちへゝをを給ゝとをとをてをや寺
をゝをてをゝうくはゝるゝたゐれゝくてゝうゐゐへをと
の給へをへゝゐゝくはくゝ書てゐをんの三験をゝうをと
いをたゝうくをもをてゐれたゐやをん中給ゐるゝひ
をゝゐるゝへこ和ゐあをさ給ゐるゝへはゝゝゝをををゝく
給ゝ給をゝゐをものゝくれ出ひくゝゝしへををとをん
ゐくゝしをへさを行ゐるゐくゝゐゝゐゝゐゐをゝ人ゐる
ゐゝ　怪ゐるくへたゝをゝをゝ給ゐをゝをゝをゝ
ハゐる死幼也
ゐのゐゐゐをにゐゐゝし給ゝ中ゐをゐをゐゐゐ人給給をゐく書ゐ
はゝゝゝさゝゐるとのゐゐゐゐゝゐてをゝゝゝゝゝゝ京ゐゐゐゐ
をゝをのゐくゐゐへゝゐるゐゐをへゝゐゐ給給れゐゐゐさゐゐ

ひんのさすらに心ちくてゐる所とのん
　　をうとおもてゐる人をきゝ侍あるをゝ云るやうに
　　ゐてゐるゝはとゝ人名をつけ主あるも
　　きこのゝちらんのうちひとゝ宮ゐへ宮のやうに
　　きゝかゝるゝ郎と物ゐりてあるこれ人
　　とゝゐをもや　　その人をいをゝ
　　ゝこんもとゝあるゐのゝをゝをゝひゐをゝ宮
　　をゝのゝをゝをゝ易ゐもの
　　尾をゝらゝるのんをゝ侍るこれ人を今をゝれある
　　よゐんをゝをなをゝ女房をゝをあまをゝして
　　口ゐゝをゝぬゐをゝひあゝをゝゐて侍と宮ゐゝを
　　るゝれなゝの心ゐゝをゝをゝゐるゝをゝゐゝん
　　ゐをゝをゝをゝをゝをゝあの人は侍ぬゐんなを

やたの物をゝをゝこれ人のあまるを心をもゝ乃をゝ
　　寺ゐ侍るゐへをゝをゝをゝ侍をゝゐゝ
　　をゝをゝゐゝをゝ宮ゐをゝをゝゐゝを佛乃ゝ
　　ゐゝをゝひゐゝをゝんを侍のゐをゝをゝ
　　ゐゝ侍ゐゝんゐ宮ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝ
　　をゝをゝをゝゐゝをゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝ
　　ゐをゝをゝをゝゐゝをゝゐゝゐゝゐゝゐゝ
　　ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝ
　　大意おゐのゐゝゐゝ
　　ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝ
　　みゐゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝ
　　ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝ

こゝろさしふかくいひてかへらんとおもふなん
近ほくらんとや
かなとかうしてかへしおくりあるもいと稀なる
中君と薫と中をとりてかへしおくりとや
おくそれとも我この心ろは地はしきとゆかりの心よ内宴
なともくしく心のとかなるに　賭弓とは天皇弓
場殿にのそみて弓を射給ふをいふや仲春よ
とり見る事は礼記なとにみえも侍るとや近は左右
近衛大将四府乃舎人なとの射侍るや左右大将
射とれ巻をとる頭大方近衛乃官給ふてあまたは
出ともにて後射をこそ賭をもとのなりとありし
と云内宴は内にての宴会と云も仁寿殿にてありて
給ふや

ほくさめしなとうひく　春の除目はあるしみなと
いへる司召地方のあれこなくとや
人の心浅くもあめ給ふへし何とても地は
おうしきんるまとのゝ地はしめかし
むまれてより除目ひらいてあら
ふつゝしうめしはかひくいとくなるおなり
むかのはうちそれにてんやなとの給
かうこまつとらぬさふ給　まうらへしてん
ひとひとおそれるまれとかの字治りとも
はりのにみへしくの分あきとをなしみなり
見るとしきにかるや雪あそもおくとも
にあるくさひやうとなるともなしまのそらなし
てあまたかうあしぬかと見給うさめんとも

まゐらせ候ましき御まへにていつくも人ことの事候へとある
まつりしとふて御ちかしきさんまんへいてをかしきこゝて
えふらん候れともとかく御ひとかへくハさかりそのもんなと
くるひてさとを打かへしましてみゝのくれなとなとかりまし
つきぬんさて暁よりてハかくらせ候そのめ人のこゝろ候ら
むかしハ中く候とまたさかりひ候んしてそれにおもひれ
わきいうそてうこゝろきゝ候んとやもと申しもしきとひと
たひ二三ちひかよひしみちありかくしこさまとなをひ
ぬへきかとのいさしの清くましきやとて思くあるかま
しさてとにかゝ清わ女も御ほせとかくまてうち出候へ
またえ候めひとつめ候を清とまた昔をうしこのある
いはましつましきの二三人この内記にくハ清め仕とこの記
人をりくうあるをえる所わりさん此まいしき限りをえ

つゝありて大君御ひとよおかりとしなと内記なとよくある
いさか候て出さらに候へよつもそとも御まへにとおほしける
おやしなよまてにらそとはせまてかてありさし人のき
めふかしろめくれましきみとなふれとおほしいかゝとさ
まゝくたまりに　宰相中将ゆつりの御なとはましてはなれ
つらさ候ひしすや
京のうちそとにもまたく人きく御ぬすありてハさいつとそえし
候をぬすみをしとおやしきさき院の御つましとかくして
うせむりたてたまへともうらちてもかたそろしくやてかましをき
まいと　むかしましきや
物のゆへしなくらこともてらめへなんすれん山ふうら家
候まつたいつるやさかるんとあそまでてともなりてか
ゐるんてそ歌まてしものおやしなるへ人をは給なかほれを

ゆきとさえたるあしのうさうしの程まてハ清華まてをれ
ちりそはる馬ゐ度をもつあつそをきてようねをくれかと
まおりてまゝぬ内紙あるへすく志ちうれ屋の人まとひ
実たりをれたとのゐ人あるまゐはらてわ〳〵垣ちと先
あるあおりてとやをしすゝちうちて八ぬゐあをさ
をうしきまこ乃ぬ内住居ゐいれたいとをとくしをれや
人志けくをゝあゝねを寝屋の南ゐりてう紙史か
のてゝう乃こてをよくとゝをるをとす紙をりてま
ゐ人をゐをくゐへ〳〵たゝこれまるとゐりてまきんと
志ちへ〳〵ていををりやをゝこのゐりてうゝれひるゐある
をゝつをきてゝり紙をいゝたをたゝくとゐるをと志ゐま
〳〵　伊を簾と云ハ紙をゐををゝれやうゐるゐりて
あをたゝ簾のゐる物也

あゝしとうをゝををたはくゐるとゝれとをすゝにあゝく
〳〵ををて紙ゝをゐを志ゐををゝをゐこゐをゐをゝ乃んとうちと
ををて紙ゐをゐをゐをゝ乃ゝ物ゐゐゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ゐりたゐ史あゝうゝりて物ゐゐゐ人二三人ゐゐゐをゐゐ
をの物ゐゝををゝゐをゝをゝをゝれゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐ乃紙ゝ物ゝ紙ゝれゐゐ　ゐを二条院をて宿舟
とゐゝんゝ紙ゝゐゐ　ゐゝをゝを乃ゝ物紙ゝをゐ
ゐゐをゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

まう浮舟君御なやみし時なをとなぬへしらぬよ
人と又ゆるさるゝ也　二条院の右近ハ中君のめしつかふ
女房也手習の巻にて参りしなとやはらへしし人
也この右近ハ白宮のをしいたゝかれし時なに心えし
みやそれをおほしいそく右近といひし人をもなとみ給ふや
ふたりを物語とて　物をとぬかるゝ也
かくてもとしてせ給ひのちさきみしをとえりつかさせ
給ひしを　浮舟の君山より帰りて母の君へゆかんと返し
さわるゝやうにてこたみさへ尼となりて給ふし薫へ
ぬちかれはおほせしまゝむと此自の御後かつ御
又みえぬゝさとも右近をいひし
尼ともは此さめし此はかともなさけつゝる此ゝそ加なへ
をとおはしまさんとこの上の御使をとりけつ此給ふに

さのゝ宮にさせ給ひつるんといひて人とせ給ひて
物とてゆゑりしさまりおほしをもひつれさせ給ひや
うちかんかえりて給ひしきといふへむかひあう人
又ひと女房此右近也
をまさんへかゝるうちまきりそかゝらと此せさそこ宮にさせ給
ゐるんてよりかゐ給ふへしゆひてういとおなりてお
ちひかれさせ給ひ右近の給ふうりて乃はをやりてまゐるを
ぬりしねかいかくて心のそこをやうかれとよしなかうと
てやもいるたりぬにをぬゑりあいかゝ中く旅心ち
もんしやあといふ　京乃右なハかりて旅心地を見え
又ありハなをさうらうかゝ給ひいさをおもひそめ
とやうはさゝよりへさすや京へあとむかへまゐらせ給ふて
ん後をさしむかておやみをなかしまゐらせたへりし

又あるときは又こと女房ゝ云とも
この母をくれいとさきに御ゝ行て俄ゝうゝ申ゝ給
ちありうゝ苦とと今もとものねんしたてのうちうちの人々を
さいたちひとりそて給たれあといみあり　年若なあり
若うる母上乃るのさうゝ意也　又云まゝく京まて
のつひなりにまりて母乃石山まて参りてとりそうする乃
とも東屋のやとゝ又母上乃姫君とあるゝゝ
ひうんとゝ給るもの
たゝとあてこのまゝとゝめまゝ給ゝ
年若りありあのとれとも
有ひめうゝひうゝさんのあるにてをみゝむとめ
れとやこのゝんとそゝ給るあると　あれとのうとゝ
きみはくさうのわりさうゝ出ると義れ給ち

そもゝ所　白文ゝ
めれとうゝたさと学給てきみはくさあのゝとお
ゝゝある也　若白文のゝをはゝ給ゝんと
ゝさうゝはくまてうちをたゝるゝとうひゝ文
乃うゝそいとめて乃ゝ
ゝうゝめて乃ゝはいゝさんゝひゝれ乃の大ゝ
ふゝれとゝ乃若生れ給てのちゝこゝれくゝ給ゝ
乃ゝゝ所さうゝんゝのゝをてはんのゝにうゝ
うゝてゝてゝ給ゝ
ゝゝめのとと母若命との乃ゝゝゝゝとゝ
て心のゝにゝくゝゝ給ゝまゝと中若をかゝ也
後千とにゝものやに　若のゝゝ若乃也ゝゝゝ
八中若ようゝ舟乃給ゝとも

思ひ出て行すゑのまつ山なれとこの
をとこもとしのこのかた
ゆくすえまつとしきけとも
ゆくへしらぬわかれかな
あかつきの
ありあけの月
ありあけの
月をまつ
ほどにいと
とくもいでぬ
いとあはれ
なりけり
ありあけの
月をまつ
ほどにいと
とくもいでぬ
いとあはれ
なりけり
親族や行ら親族
みてうわるらんとやほ
ゆらめ
ひろれとこひろしみん
ゆめ
ひろれとこひろしみん
こころもとなくあてなりとて後ハくれていとこころ
しもハたくらうきにこまうの所をいとはし
さうろうありあそぬとこころをあらんとて
をとこさうとゆしとあ岸ーこあらうへをそれとみて
ひらくやうにつきはこころうをかたうて
なくしらはいてうこれをあるのよハまうすへきとて

こころをとこふたりの行ひくるをとまりの行へて
さのこのようにぬ所をとんはひくさへゆうとあり
ちあらうへとそれとんくハやうにまーきとまう
てうさまの神くさもなくんはくあ物ハうう
あやんとおもやも
たくとて行てくよへもこころはなはうてきは
とあてのかくにとれハあひてん　ものの行をもぬへしも
いそうと行ふとをひくうあハはをそわうんやうひて
えひくあうあもとをひくうをあてれ性ようちうをなと
してくくねのさあようちうぬえうもをくわに
いうてあをたとハわあすてようあくきうーうてそき
たうえの行とらくくうぬ神てくーとこられていとこう
行うあるくーこうとんはてえやうもるけきはん

のひやうにこのかうしとさゝせ給ふ大とこさふらひまいらせた
そやうふみをはしりを給へとの御あらんときかやうにゆるし
つまて　薫のきみはかねとはしらさりしや上臈しきこえしかとも
とのゝゆへしたるみやとこそおほさせてましましけれ
おもとよとの給へとおやしうおほしける紀猶すこし給ふを
御そこへとは文給ふんものをともいふにまかせすのへまかりたまふ
心への御かやきるのよかりひつきたまひゐるまゝにはしけるまゝに
いそはらく
　家よりて大山寺のぬるのを白河中納言
てゆくりてこの人集の紀行みんとなりのはふかいひしに
おもちまてきこゆ薫のまうひとしての給ふやうなれ
姫は薫の内侍ときこゆ太輔おとりのゝや
いとこそよりもおほきに清きまつ　おもとよとの給へはこれを
まうふま心ちをきを給て思ひされたるひとまも

義孝かねのよしひめちかは申おはしますか清平親王にまいりて
か侍ることおほしめるかいたきをたまひつゝ清まゐりつゝ
てのれみこのもとにはゆかりしあり
おやかしもかのゑ遣きぬとさまらぬへるされはとへはいかれて
かいそおり　とはとうしめすもとこゝろもえて
乃おほくいとまつきたまふ御そうてなるおれぬはきえて
ぬきをへりおひかしつもひとつしりうとも
おやしきすきさにまうりておんたまうまきとのよくへ
をはなちりしとおそれてまさひとよりしやうしつれ
へすみもまうれのりりうそくおもうちはあとといとらう
くしきゆ心すてもとよりをはのたにふとまうきと
らうくしきゆんすてくお薫の上臈しとおりよしさ
まれんはかりひるわハこの此給ふをみせ給てみそるとそ

たくのうちのあるひとまつのひとくうとなりゆくことをれさ
ぬとうなりつるうれる海をうさあるんとていてわるてゑ
をうくうへ毒乃をまる　たんとをうをうり乃毒をせてう

とや

いとはをやうになみくやをちうそなてうのうそうなるの
をををくををちうそうまるをてゆをとをぬさるれうりり
うちうて行つまをしまいの毒をしてををとうをとゆを
の毒をしたゆうをををうて毒うるへくゆをうてさを
しををををてみる毒ぬ時ゆうへををきいのちくゆを
ををぬをくをひゆくををるを毒の毒りををまを海うれ
うを毒ゆををちををゆくをんををををををうう
海へをあををとゆるをうを海行へ毒をゆくををくををそう
をうを海ををををひゆくを毒ぬ女をいあをぬへをりを

あとををにあをまをうへうをれををををんをさ
せ毒ををいををゆくをまをうをををををりをり
つををゆへをれをを毒ををををををにあをさをををををを
あをぬへををるををををををををををををををを
をれをくをちをするをにやをくををのゆをうをしををを
ををををひををるゆををををの毒りをれををやをををぬを
くをををくをれをへの毒ゆをんををるをををををまを
ををの毒をの時ゆををを毒ゆ毒ゆの人を
をれをの毒ををををををををををををををををを
ををけをるををれををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを

家をはなれて たゞやまかくれ ひんさんするやと思は
きこれすれをふ秋をたく 何事はあくはあのゝへさてこ
をはく我た上ゐて 集れのふて 行のんこちをたく
あの後ゑるもに 又ありしますんこともの これも京
母はをやめさえの所とをしふちうのをやかくておもん
何すをつけるのをつされたのめてそあはれ
庭忠寺の後は何ぜん見る所見たゝめそん人は兄まくかし今れ
そうしとて世くしまさんはふくとに忠ぬへく御すれ
そこのたとそめしょうをていとこちるすしとも重ね
色々れどもふをえいつまうらるのんわうとのことくは此
まさるちのもん河りよるくろへてさつく付ま
は　自家の侍や　出雲の国守何方
京へ揚して山寺り忠ひろくちあんとはきもくしかるん

此後はつくへ参とせよとの給はいとおさましくは
ききて　太郎も自家と知るや
心をたすると思ふ秋のおやまちてこそかす　太郎さん
をとうとて戸をとめるるをはら秋のおやまちをとふ
かす心ちをもさらひあるとや
此ちをまをひめへき所まで今はよ給つま思へ
まきさくとものひわし物ろえあめまとなり
さゝへや空とものひるすれ物ゆつり無礼するへしとい
下たることゝや
おやしろもし行すとそとにいとあらう思はしいかならむ
をとうとの道行ある何ぞとくせにてそこゝろえ　おや
しかしわのしくやとうちつ思はしいりしをとかう
はのうま何をくせすてそあのつくんとやいま二条

陸奥くわひ行くるや
人のそらうさう　たとをあけてへやたうこと
なれし面あやまちとそひるくさうあるや
又人のそらうわさよあくしのうまねは考うそとも
てとうひなくさあてそふかむくよや侍くというにせさ
せ給そんとをるかとにうわ
うるかをくせしいとかのしを侍くるうるの侍
こそいとをるとなくかをとをふをそふさいて侍そくさう
てかうるうさくかくうたのそうにもとやわとよをまて
をとうれと侍くる　やうさくあくいの新あをとかあまをとやとおくる白
やうをとうあれと白うの侍をや
面をは侍をひはるにはまをそてんそれとんのもく
くんをいそんをたくをひうるにたうひたうすく
をあのくくとうくかくうむんあうさいをひうち
をんやかをあを　石ふんうるは母うくうるのかう
はくをあくをうをとせうをや
そうそはくうんるをとうくんよをたくくおをうと
うるあをとをんう　宇舟のをあたをとを白文のそをん
をとうをんくくをあるのかをてうひるくとや
ををさうくまくにをかくくこれんの世ををくをを
宇舟のうをとかをあををあひをへく
をとををかくくをとをとををあひさをれをそ
たとをかくくをとををあをんをかくくをんの行いをる紙行をと
くくとをくんくをとやをを行んをあをまくうをつくるる

清きほどいさぎよくすがすがとしたるこころばせの人のかたりそへあるめいそうしんあさきさうはかりてなりはてをたをいとくしはとゝはけくるしくやうにおもへうるはしたるものの名をとゝるとそなりたるものと自ゑいくんとゝやさを行へとたゝとゝや

あめをなれるをさするを山ゐなるとゝを作まつへ

云礼なるものあとゝやゝ山ゐやれるものをあくハつくゝや

ひとふるゝ者をたゝとにたゝ田舎人あとゝなるをハ云

礼なる事をやとゝ也

いろゝまゝとゝ用紙いをにゝとまつゝてゝとをそ

ゝとゝとたゝり何方と行ゝ新よりさるんとてふ

たそうゝにてあるやたゝをはさぶるゝ　みたを

り何方とそゝそうをとへたゝともいゝり

きゝひてうゝ人名ゝとゝのあそうゝられたゝをゝ

ゝとゝあけてゝそうてぬゝしゝ　ゝゝゝ人たゝひゝられ

うんの字ゝたゝをはゝゝの方をといひたゝうあゝるゝを

おそうゝみてゝゝうんとゝられあるゝ何方ゝ知ゝ

ゝゝゝにおゝゝゝぬはゝゝゝゝをゝんゝれて新をゝ

くゝ方ゝとゝて者ゝんゝゝゝくゝのゝんゝを作はゝぬゝ

ゝとゝていそゝさゝてぬたゝをゝんゝゝゝまゝうゝふゝくゝいた

そうゝんゝさゝとゝゝゝとゝうゝはゝゝゝゝゝんゝくゝはゝゝゝに屋ゝ

ゝゝゝゝゝ

しまうんよあるふうーやとうんをあるる所下をる
とうちうそうとをやうそうんよいといみーうーんといひ
あうちゆうちあそうーあやあくに度のはうひれあーん
時いうふうそうんと初冬乃歌言ゆーーとるてうーう
ゆんと大形をたてうういーゆうそうまうてさをんと
てうそうえのむうふるうり寄るると　むうひさたるへーとも
ゆんくくをみるたうーんーうさるまうりてあるに
うそうんるとなるへー
たうそうえうそうせるまーーさるあういとうたうれ
さたうとうい百たくくるれそうーあとけをてたを
そたうくはうまうまうりあうすやれをうれはみるおうー
まうーてはいうるとうをていをうまう毎えるやみいう
うはそをはとて言ゆんさうーうるとけといひるた

ありけりと　言ゆんさそうーうるはといひるすやうう
はてうんはとあうりあうたうはいまはいうやうるれとまう
なひはさまーーうはるされてそうにあうそをはうと
のはふ　はてうんはとあうたうはいうたうものやうるれ
とうまうるふやうあうーーうるーやうにはさまー
やはるーーあううさ舞るさるてまうさうー
はうも
如いとたうとうゆはくさんとはんるーうひさうに
言あるるやとてたうはあるはや
はうまうとはんさうんはあんーーやはーーこうるくくとんさ
ーあうーーというはをいうすやたうんとはやあうんとはるはひたうーあくよ
をあやーうとうるるあうれ　白言のぬをれをうーうはひうはや
雑をはのやうくあうーたいはあるはさんと　中言と言

とをとうゝ彼ゝ人のほゝ中をのゝとをとをゝ
先ゝのゝ人ゝのほゝゝとをゝひゝて空の面一とをゝゝあゝとを
ゝゝ　雅とをゝゝぬとをゝゝをゝゝゝとゝゆゝゝゝ
なゝ代あゝんまゝくにのゝゝ人ゝゝゝ

[illegible]

春霞をかの山の桜花[illegible]

[illegible]

中[illegible]

大[illegible]

[illegible]

[illegible]

とゝまりをたり
はうし心有様とかくはよるおろんちとの給へ女
ぬしをつる事とゝりて　いかはうしてもあらつゝと
幽といふけうたゝまいのちれたちあるれせと思なまうへ
うき舟奇心を命とそにたくあるれせとこひさ
らし白女のゆゝすもたゝそれなんとゝるけう
とも花をの流八思ふあとゝ事をおけうやとも
人の心もしめをれし命にうきゝぬんも
やあるとかゝるんとゝうゝうへうるとゝうやん
給へあといとらうたゝ
とふるゝしんのうゝんをゝるけくまゝさ
とゝあれを面様をけきたる事なれしめも
らんとゝうゝめゝうゝあるほ舟のんらう

あゝゝや
つゝるへの心うゝとゝんゝるゝとゝひくゝあとゝゝたゝて
大おのゝにたゝゝゝゝめゝたゝんゝをゝゝゝゆゝ
うゝ給へゝゝゝとゝひゝゝとゝうゝゝうてえいゝゝぬゝゝと
ゝゝの給へゝゝとゝ打ゝゝんゝゝたゝゝさゝゝゝゝゝひゝゝら
とのゝゝゝゝれゝゝゝゝゝんゝとゝゝゝゝゝ

いとうもをかしうくやさを行うう東山をひとと
時絶えつつ人のみいるものしゆつるあどうとてやこそ
はまをうつうあそをあ物まに付はまをくろうるうんそう
つんとさんさうとうて行て　もく行をたすやと云ん
うるむさうれんやうの堅おたうきうう紙をんのんさ
へさうとう行ひくく東山をひとものあるあそくそ
るうとさんせさを行とうんの内彼をれた付まう
をたるや
そうるうとさんせさ野張ふとうとうとのあとさん
つをやのこさとあてそれをいとうう　ひとつの
とそうあうくもれの羅いはろひんとや羅という
さやそ云つるや
うくくしれはまをそれみてを絶ゆ張つうんまこ

とにいとあやしふはこのまをにうてあくをを行うん
白ふたうやうれ宮うのハ行はうてあくひ行そうや
うくうう知りまうんくやうけ張りうまりにも
いとうくあるみられをうやうしさをてまりあと
あるれはありさみそいとはつうひやのあ来りてさ
ちんとまのむやゆをを　時彼のを絶うり中行く
とまのをと云や
きふいうあうんとあたくやうにはを紀方そうひ夢
きううくうれるはとの屋上のはんうてまりあくそ
やいうくもんくさうはむんさんめもえをくうとあまう
くあんをもいうにそうんやをもくんはうんくさはくいひ
うう　わちはいの時中あれをもんうあるとや
あやくあまてむうくうをむつまりさ中にうれんのあさ

てのそこまでゆんぬ時そうつうこうみいうにそや空のそらひす
いふすもはまたはまちとなるわかはたちとをそこに
菖の葉のこと行とはすりあるてうはるれ出まるると
いいまた恨行うんを浮舟いとゆーうるへーしや
空のあーひよわうあやまちはとうそてくのそうといふや
菖の葉あしきとはいとそて浮舟とうーー行そんと
白れうひ行や
うーーとられ行うんとさんるんとうう髮舟をへはまーーを行ん
ぬさ海あくくるるーぬ不よあてもんとその行ふうあ
さんうーてもるとあ行へきあしねを出行ゆんとするふを
神の中ままくめ行ひつーんうーー
あ古りし神の中うやへふうんを和ぬなれ心ちを行
あをまてぬされをとんぐーまうふよはとうーきるやつふ

戸口までうるひあてあうーてえかゆうと行まは
世ふまーーもまとふへきふまるをとうれくーして
空ふまーーねいをめーーをあうまはふへきとや海うえち
かとにうきまーーてきとふへきとや白ふう
女をうきつるくを年をひうう
海とをあれ神をせるをうぬてうふ利とくーじんきあそ
浮舟行なる神とはわうは教ちーぬくーをんやいうにあ
とくーむへきあをを早下れんや
用うまをいてあーまーくを年年れ焼りとのうきぬく
をひやくうにあうたる心ちーてはるるのうと行ふ行引う
るをにやうるあさまーーれと
をこのめれはうーくを四行れんとれうきぬくあうそうひさ
はるるこのう浮行引うをとやうん　西うをのひふ行

うたにうたとみる都れみちをはわすれくしてんこそあるこの泊とゝゐ行つゝとつゝ
清信のゝくいとたゝとゝれ母しとゝてたくいをそうにい
そう出きゝ郡あもあくて出行ぬこれ文信二人ゝ
るのうち母はさゝひとゝる　文信二人一人を出雲ちもや
ちくきゝ出ゝゝて海そとのくもゝ母はの船行のゝをと
あゝ海ゝもゝひゝのゝとゝ内人ゝゝくゝ物ゝゝ言ゝ
ゝ出るよのゝゝそう船ゝ山ゝゝ出行ゝゝくゝあやゝゝうゝを
海里の船のゝとゝ海をゝ二条院ゝ物ゝゝまゝて世ゝ
れゝとゝゝうゝゝゝ泊ゝくゝゝれゝ　うゝ
舟ゝうゝくゝし行ゝゝゝとゝゝ
ゝゝをゝくゝゝたゝのゝゝるゝぬゝゝ行ゝ
家内ゝゝんやゝすゝ行ゝゝ

いゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝ

の給へれとそ
　　をうなへしとも宿毋は清る子孫を給下のむ
　　とそてくの給つ也
かく中又あくさるれまるて中のしあくこいつやうにゆのく
るくたるあくとくをとうり給そんてそあさまくをを
を心うさ功毋をくろるるをいとうあくくうとて
をもひさ給つう　　をうちをそうくしおとも
うくうをそうくしおとも
あををまあくち給て濃よはくくとひ中ゆることもろ
うんをいうくあはたあふあろうるるくうを
ひとあをうくるをとうむるまてくそあをくあ毋こ
給るうこあはくくあるくうあり　をうををひあくくあとも
給をうくくあくくそをとうをとうをとうあくくうん

の給ふんいとゆうふとの給あををくせうあるうう
て易くうくあうそうくとあはくくうくくを毋
給をさあるくくさとあくくあいとくくをひあを
ちうくんと毋中れくくあとうをとうをとうあ
とをくそうを毋ろうあと毋すいをくせ毋をて
あくくをを給をあくくと心うをとを白毋の給つも
毋をと清中れうくくをちうくくをとをとうを幽毋を
ちは陽ろうれあるれいとあうくうをれくくくくくさとく
をあやうるるいとあうくうをとゆ給ろるを
うんとあをくろあくにくくくくゆくくくうんをを
中をの心をまをとくくゆくくくうをを
うをとうをくを給ふくうんとを給つも
毋をくれをちうあくくろくくをゆ給くくくくくくくをとをろ

らうにとてまうでゝ行よりそのあしゝめ　八月ゝ毎
天色婦天色まうでゝ行てこのまうれさきに
みくしげどのゝそめられに行るもうくしく
まうでゝ人ゝとまうでゝ人あゝく　蓋ゝとまうでゝ人よりは
しるもゝ
その御ゝをひまうでゝ人ゝあやまちて
うにはしく　はゝきはゝ　はゝくらうあをたうはゝ
よりはつゝめゝてゝ　ゝらうあをたうはゝ
日　蓋乃人ゝよりはまうでゝ人ゝとまうでゝ
まうでゝとあやまちて　はゝくまうでゝ人ゝ
あゝ　はゝくまうでゝ
うの人ゝうをたうでゝ　はゝくまうでゝ
ゝとまうでゝ　はゝくまうでゝ
ゝとまうでゝ　はゝくまうでゝ

乃清ゝとまゝくしゝの行てゝ　はゝくまうでゝ
ゝとゝとまうでゝ　はゝくまうでゝ
ゝやうにゝゝ　はゝくまうでゝ
ゝやゝとゝ　はゝくまうでゝ
白ゝの御ゝの　はゝくまうでゝ
乃ゝ　はゝくまうでゝ
四ゝ大宮乃ゝ　はゝくまうでゝ
ゝゝゝ　はゝくまうでゝ
中ゝ　はゝくまうでゝ
ゝの乃ゝ　はゝくまうでゝ
ゝゝ白ゝ　はゝくまうでゝ
ゝゝゝ　はゝくまうでゝ
ゝゝゝ　はゝくまうでゝ
ゝ中ゝ　はゝくまうでゝ
ゝゝゝ　はゝくまうでゝ

らんとしるしをれとまりとんに心ちもたりしあるやう
うてそ皆いまうの行つたこと事をすると事うの行へまと
みをつうちにてくるゝ行ゆつくさた大将事うの行人
ひとこたこうとてうちるをるゝ事いめゝ行うの
るやまゝもにあつまゝ行と行つまこと交あもいとお
あのうるゝ行ゆめゝてうんいつやうたるはるやこる
うとやゝこあつるうゝにんさこれついとゝさされこと
やこゝくあまて　大ねとゆゆゝゝられこほ舟つ
るゆはゝこゝれあるゝ　るし
ひゝるとこれとはんひあゝゝちまるうけあるこゝん
ゝ郎　白文の差いとこんひ行つるゝ聖ゝんとうして
うさあ行ゝくゝとうれあるゝ世よもこたるこ山郎んる
てことも

さこうるとこ長たうくんとはくくとこてんのこうに月日を
行るゝひさこゝひすとおはこれいこはゝもあゝぬるゝ
れはゝてるここんゝとこてゝゝ　あのう行を
行こうるを行てうるゝまるのうんゝ行るゝ月あうう
ゝうるこいうにの行ゝゝうゝされとこやゝれここゝれゝ
色うを行うはゝこうるゝきにうこ行へこいとゝるひん
たうわさうれ　ゝうんるゝ所と云和やこゝるうんゝと
もゝるゝわるやいなゝにたるこんゝはゝるゝ
行とうくゝゝうぬは四ちのさゝすうにはうはるはいと
あゝきわさにはうは清用うくはくゝうこを行へるとまる
やうにやゝしとこて出行ぬこうゝ事たゝ所へるうゝる
うゝ接とゝうゝふこうひうくゝんゝんゝ事と　差のこうゝを
るうとうゝくゝ動ようこひうくゝんゝと自文地ゝたるを

さ海くるるそこにつをたくこのんとそたつる志
をあ月ゝつゝこにそるんゆとそるりていとはまてくる
つをゆえあ月いとゆゝ志ゝおゝとゆゝうさあつめ行てつゆうを
そをまるあゆゆゆをゝうゝ月ゆとゆゝゝそつゆのをされ
ゝゝゆをゝゝめゝてゝゆんゆゆゝる　月ゆゝゆのゝあをゆ
をゝとゝゝ行ゝゝゆのゆゝゝゆゝゝゆゝゝ

しとをんをはなちそめていのくるあをくまの
はるの猿あしてはをはるとさえくちるはをくに
白えのうさみよのはるる也中天六月ちるとをあを
ひろんとうはしるる也
又いたにやのくはさんとそもいとをる　白えハ年
はるのんあもしうえうをはるとのはるに深舟ハ美
あひはるのをやめるひあるえいたにはねさんとあの
をれをはるひや
四月下旬はのうはるいたそはりつそいつりさうまる
はんをさいとあををひをくにはるをあををあををさ
して山をさしるをつるはるとのはをもをあ
はうをもをこ　ひしうあのしとはりををるねとはをよあひん
ぬ恋のうるをさんをとさ海
海よれはりうちのはるるつ

白をのうをはるはるはるをはるをはるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いさ〻ゝ行くゝ　元若裏表紙をあらるゝも極く
俗ハ優なる人月乃姿の夕月夜なる人〻也然る也
如ことハすもあ〻ゝ世の表さとも始りいて女ハとう
そひ〻ちなれうさとなけきうつくしくあこに抱さう〻
山のうゝは庭へてくさむらそうそて結ぶさ
さうもそうくとあうゝハいとわくゝうんゆゝに
隠れるゆも元名るよあうゝ山るゆ知てハ鳥とんく
たり寝ますて八隠るゝ〻年元り有出去乃神也
隠るとゝつへくれくとうさくゝきとゝつへさ伝とうく組の
面白さこゆ出ハるすゝ〻く俗えうるうや
意像
くくゝなるうるゝやゝつとうまるゝや竹よ白さ美乃樹
ゆくくさのふとゝ白さ物ゆもそとゝて出たり不
絵くゝうゝて可用とも也

宇治さゝ乃をくくとんけさ乃るに出てゆきゝみゆ乃
あてうゆゆゆちひあるゆゆとゆうあてゆるれぬるゆとと
のゝさうさあけゆゆ所あゆれを乃行たひとふ行れ
くゝうるれたく今のうゝちていとうゝぬゝとんうゝ
あゝんまて立ゝかつゝきゝ中れ表地ゆくゝひぬつき
ゆゆゆゆゆて立てゝ立てゝさんよゝ我てゝ出たるゝとゝよるう
らもゆゆくゝ地のんてゝるゝ表こゝれ行るゝ板の地ゝるも
ちゝれくゝんゆゆさうゝゝあるゆ四ちゝ行り女ゝうゝあつ
めんのうちゝよゝゝゝ行るゝ流ゝもゝれをゝてゝうゝを
たくゝさゆゝゝ行ひて
宇治橋のなゝ行ゝゝゝちゝゝゝ

と言ハかりなとあやしむとそひとくくよりわ
今かんかひてんしとの給　わくんのうらぬを拾う
ゆゑんせんとや
さてこのこせあるあやうに宇治橋と行せあ拾と行あのめ
宇治あたしまのこみくくまちとあやうなとくちせあも
のとなるかをとろめとやなるふ彩まきんのんあり彩め
とややを云うあるふたのまきんとをんなり
さたくうちもいとをんをてかくくちうもたちと
まうまうくはさるれとんの拾ひろやをうぬま
いとうもんやをまをすてこそちとはあてあて
暁よりうかぬとうをとなひたりうれとんうろ
しうはういうことをうにたうけるも　宇治
ろれひまうあう義也

二月乃十日ハ宇治ゆうあこはくこせ給とてこのうもと
大将とをうあひかけうわうあひある拾うまくとも
ゆ宮のゆ参ハいとをうてたくく梅くるとうくひ給ふに
うもとんうあ参はうまうかうはさ海まく
まくうあう参はうくうあくのこうんはくこうを
拾う宮紙うあうとみられ風ものをくられを海
あをひとくくやこうあこう宮のゆとれ拾ひうんくく参う
給拾参うあをてうちやをこ給うたあんゆ拾の給
まんとてすくくくちくゆ給ゆうに書れやうくつ
をゆうゆうあうをはくくしこをやこをあやう
と拾はゆ彩白ひを給みくく　菖の彩とうをう
云乃彩の言ハあやう梅花をこをのうをうぬやうく海
衣うくくをうひとをやとうちすくを給うるもをられさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とかうべくそれとも二三とせまたりて左ゑもんの
めて作法のんあるべし紫式部と源氏すとろ年
小山みくだの神行しそたいはせてこすとろもや
見とかあして源氏の作年ともうえんあるとき
さ若菜を紫式部ろ新楽の時ろハ廿七ねあ四
行年行あて〳〵さるたりこれ三まき作ちめすやすと
しれひまされるそ〳〵しさるいあとそそとたりる
を作ろもあんあてちる男ろちんはまろ〳〵拍
し作ふつの作ひこみさあるぬるすとそせんも
ちとそろもたりあとも作ほやをくしさるも
とくまとそあそたへもるふそうしそそみるへま
うてるふ文のえとをくまたりやすすのうれと
るにとも作ふまを作ろを

白文の作作ふえとんろはあるをれとをれ
をとそたるも作入作をるねやおそふへんの作ろ
いうるかちあるうる作ふとをとしろうんとをうり
のをおはるまるる　白文ろ作あろるりをお
はるをやを拍をひろ作ふをるたるを作をて作作を
を作かるんとも
彼へのの作をるるをあるるれをひるれをを作
さ海るうあをうてあるるるるたり　意を
ろ作るくをいるるひるるかされ作ひくをうる
ろんして字法へまるる作しや
京ろをおかをりるるる作ろ言ふろく入まく
りやるあるうるたりは作ひるるをとるれまを
のるを作をとるをあふはをを作をれへをるるる

つまはそろ〳〵ふるてをさんべさま
をさしのうりあるを　元　元　元元元

中あるへくれてとろくへめをしてはくまくさに時雨に
さそはれて川もとをちかくへのあるわてお
ものをんとかまへたりくれもさきたそてくはうくあり
ある　白文の内のうちものはなりまうそんさをう
むうひはさくやくれあるも
秋ふく秋のもに年わりのいてとくくよういしてきつくあ
とやさはこをつたにくはつたにくとたとといとのの
くくくくくれそれとひまてやまたたくこちもとるる
あるれあるやくくくく

絹とうけて橋のふ[illegible]ようけて契りを年と絶て
もうらん[illegible]
女もめつらしうあはれみちのやうなる[illegible]　つつも
月絶へとも白玉と友なひく舟うてゆくまに
行かめつらしうるへ
橋乃ふ橋の玉さうしとこれをき舟てゆくあまをまぬ
源氏　橋のふ橋乃をいまをたらすまくれと此
うさあををしたるうへをもつぬもあと白玉と
りんとうををまてうれあるひろ武やむ長な
海人とも
おうらうへのちさよゆくのをるにるをもはりなる
れをしにさつきて物うれよへうををうんをい
やをうをうるれをつるうををををまて
白玉うあをとつるれるつと沖
の人白玉をとうふしゆくゆくをるれたををまて
ゆををつと
いとりをうをるくをふへをかくをてををれをうん
とりををを時白うをとをれいををのををなををらをを
さうにををれうはるをとあるあるあるあり
此歌をいうををのを行ををるあを
まをいとあをくくをあをろ屏風あと行をををを
ぬををくくひあく　ををうをうを
うををををにををををををををををををををををををを
ををうをくをりをとてあるを日ををををををををををををを
あひあるにへのををををををををををををををををををを
舟のうををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かゝひきたてまつりてまゐりて相撲しまる紙

時方ゐはくしたる神や宿もれるもや　時方神也

つゝんもえをたれかとゝひたり

いとはそろうゝうゝもひあるはつゝにうもと京のうちと

さんかりてたゝしむかう相のかゝひたりと

白交乃ゐるものとかゝしてゐ時方相つゝにうりあう

ひとうもとうもとうあるまゝや

人めも絡てんやもくゝかくゝひうゝひたる相人のうゝ

しゐへうゝんようゝあ乃ゝしゐうんうゝと相ゐゝゐり

てゐゝゝ白うゝゝ絡ゐ　菖蒲あもうやうゝてゝゝや

乃ゝゝあひつゝめとうゝゝあに如てゐの絡や

二宮といと面んゝとあゝてゝゝちゝゐり絡つゝ身振る

ゝゝもゝゝゝと絡ゐ　菖二宮とゝひ絡と中ゝと絡あゝ

うの乃ゝゝゝめ絡ひ一ゝとゝ系乃絡出ぬて　菖の

さ菖ゝゝ交ゝゝゝゝと浦あゝゝれとゝひゝゝ

絡ひゝゝゝとゝかゝゝと絡ゐて女二交乃まゝとゝ

絡ゐゝゝ絡や

あゝゝゝや　菖ゝの相や浦あゝと菖ゐゝゝわゝゐ

ゝとゝかゝり絡ゝて女二交乃ゐゝとゝゝゝゝゝ

絡ゐゝとあゝゝゝやとゝゝり

相方ゐてゝゝ川ゐゝゝ絡ゐゝとゝゝゝゝゝんゝ

ゝて絡ゝゝゝゝゝゝゝゝめ絡ゐゝゝゝゝのゝゝてな

乃ゝゝゝやゝゝゝゝめ絡ゐ

やゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ

ありさまれるもの
白波いろめきたわうとの四ちよりとはりひ
てこの谷つたとそ物語してそうに出る雪の山つはも
まるにのりすむるとこやり行へきえ　うき
舟乃わたる瀬乃面のみとも山そうんとうけたるや
霞乃衣きしくに横たるとりくやなるたるへきをこ乃
うよさくしくゆ夕日うりくやなるたるへきをこ乃
つるうるたるとおられ船のくるくるくるを路
美乃雪河の水つきて春のそさとふみちはまとの路
白文　美れ雪河の水　とはなてとは宮治へうよ
ひ路くしくしるるやされと乃月はまるえす天
りさうとも
こたるさ乃雪すてるをそ河きとあとあやしきさるを絶
しるてるるるひ路
山路のこるれ里まるはあれとうちうそ行美紙とへそ
美るとをつをこんをは山あれ心すてくまりちるもをそ
たを治へうつ乃をれ河のえんを切りう
隆るれ河するる海雪とうを中雪をくはをあをあ
浮舟　嚴乃雪河の水とはそうあるとうをく
隆るれ河まるる路雪とよりるをあは白文
をはうを美みをつをを中雪をはて雪るるとをそれ
白清んとや
をうをあちたりこれ中雪をとるめ路　山路白文
のうとなくはるめをとを中雪をやるめ路をとる
めを路つや
をこにあるるをとうをそてるるるをとるとうをそてるるやり川

うき舟の心也

はるゝて雲にかゝるうひかうの花はかぜにまよふ

とんの心はあらまほしんとはゆくゝ行きとのゝ雲ゝさいこん

ゝゝゝ　はつ花ゝ二日とたゝうと行へきもとゝゝんの

とうなるまゝにくゝゝふ義とのゝゝゝ　はつ花ゝまさ

はつ花ゝ二日とまうゝんゝして京へ行ありあるを

りんのとうなるや也

たゝをいとゝ行つうまゝのゝひまゝゝゝてはゝるとゝ

四十五

月たり　たゝをいとゝ為ゝにゝてまゝゝまゝれとくは

為ゝるゝゝゝやうよりひまゝゝゝてはゝる

ともむうひへゝゝゝたるゝゝ

ゝゝゝゝれあるうゝすゝまゝゝてゝるゝきぬり

多梅のゝゝゝとあるひはゝうきうくゝゝ行ゝり

侍従をあやゝきゝゝゝゝゝゝたりしを　うゝを花也

褂こゝろ也

あゝやゝゝれゝ　はゝきやゝにあゝゝゝゝゝゝゝ

きれゝはゝきやゝにゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

そのゝゝとゝゝ行て天ゝゝを行てはてゝゝ京ゝ勢

行ひ　はゝはゝゝたゝゝゝとうゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝれ行ゝゝ也　うゝきゝゝてゝうゝとゝけゝゝゝ

ゝゝゝゝゝぬはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

姫ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝれはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

四十六

無ひてくるしてんとてこの歌よ　無ひて
京へうひやさまてんとてとをてこの歌や
きつはとうれんうりんてあるこの歌
と句ことも　　蓋うりんてこの歌
いかんてさるのことをもちうを行へきいとうるたと
やこうくいつくへをやこもて後さへ歌つる　せいをん
あとうことなるへし
ちこんめのまへみこんにこのひうつうぬるのありやもひいこう
歌はさ歌　　家まて歌うりを行こふ白ゑよ物へ
うをもすしとも
歌くをもうれてをもうるへよの歌あうして秋みこくみく
物歌よ
歌てをもうれてをもうんかくこそ歌ゑよみあうけあうしたて

きいのつこれ歌よいこうくあはをめ歌へこうりつよをは
らうよりつよ歌たりやとの歌へこ蓋みをこくうこつ
きてあこういとらうこをこうり　　浦舟のいこうあ歌
しめを蓋いうわこ歌やうあはあくとも
たうをはくこ戸こうもちていをこ歌やうてこれこうをこれ
て歌歌よをはうすつんてとあはこ歌こうやうれつへこはる
と二条院こそあうてまたいとうやまこうこ歌ても
つかとこをこてこくこめこたりをこくあをこ中を歌よ
はくこくこをこうこれ門あこをはをこつくあをもあこうこけ
あこうりいとくこのこをこうこてはくこをにこ後こにへこ云
歌こうこ中を
こつこ歌こをいをこ門こをこ後こにへこ云
宗法こるやおの八白ゑの思ひ
八宗法の歌こをこり　　必歌て歌歌こをこ蓋り

かのちゝきめとむしをめれるうむ所よいてたりまうく
ゆきにそれをんやをくをそうんに　ちゝき先の
と所のうかにたくるとをんやをくをそうんに行をく
ぬとや

ひくあやしきを海あをと　えうと母のんや
たく彼とのくをてる〳〵行をうんちゝをゆ〳〵く行まし
あて母天を思るくさめくるに思て海さ海ちゝくをも
ちゝくやゝてんをと行ねゝまりたくれをいとめや
をくう行〳〵うくへをるのをうをいてやうゝくんをとめわゝを
ひめやををるをむうゝくをとをを行ふ心をも
うを舟の心めをもをるや
をれをそ心へをくをとをたをめをるをまをちをうれをへ
をひをるうをあるうちをたるくんのををとををいううに

白官の清まや
恨給しを海の行〳〵をゝををを所ををにはををひくいを
さうをををうめをしゆめふんをし行ゝいをうをてあるまて
ををを所ふりやまて白をうを恨ねくをたるをををををを山をちをや
〳〵あをて　所うひをくをををををひをうををををを行をは
〳〵をををを

うををたをくを恨をされをを逢をを行やうをこをを所をを物を
をををを恨ねををををくをを所をを

ををををたををををををををををををををををををををををををを
紙のをうをこををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををををををを

なつめやるそるさ姫を見くあをこ家さんくゝ所はのうしひさ

白文　そなたこの世紙見くをもくさもんくさに

そさんくゝ見くしはくゝ新くうるひ

筆にくゝをてうきみてうるを見とうろはうあり

しをちりもとにいとわくゝるとあくゝぬるとを心

ちり　浮舟のんれあをくしをなさはをれさるや

いとうくゝれをこひをまさるとぬくゝれとくゝめより奏

新しるくゝをさはうふうれを行いとはあうんくゝろ

めてたをあとを世中をとうるあくゝ絶をれを

みやうくゝはうさを受はをて思うくゝを新せうん世せう

をいてあくゝんくゝはくゝとをくゝふはやをとくゝに

り紅つをるくゝやくゝて見つくゝれをくゝを

しを新みん　白文　をめのるや

くゝをいてあさを所はのくゝ世をくゝはくゝとくゝを

あくゝめをくゝうあくゝをと京あをくゝをんくゝ行ひ

うくゝ新くゝくゝはくゝあやをハはをくゝめくゝてあるかを

てをあくゝ受京をうくゝにうくゝをさ新ひあくゝを

中をの世はさんはくゝをまくゝをや

あくゝんをはくゝをすをくゝをてうのうんくゝあはさ

んくゝをくゝはくゝをを見せをくゝれをあやくゝうをくゝ

夕暮れをるんくゝをくゝにたくゝふくゝをくゝの出新をうをくゝ

てわくゝ有をさ海のくゝをくゝをくゝもあくゝんくゝをさくゝ新をあやう

をををうんやくゝをくゝに　二条院あくゝあやくゝ

うをくゝ夕暮れをるくゝはをくゝうくゝをくゝ行はい

れをくゝをくゝてくゝうをくゝれて悟道のかくゝをくゝを

をくゝを見新をくゝて叶をくゝをくゝをんや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つまと伯父とうとうとうと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

めやとこそ行くるこゝろとうをもてゆくとこゝろ面のとつひ
みるさまにてなをめつとあるとあつてそこのこゝとと
ひ行くのうくめくるに安中ゆくりもてこゝろん
あるこゝ也
ねくるとこゝひ思こゝに問くこゝあるこゝ面ハかりてまきれる
此こゝは問くこゝんあるこゝとるこゝせてゆくゝ行る面
つとやまひこゝ也
めあるこゝうちとこゝとうに行ゆかあるこゝ行ゆくこゝとちゝ
なくこゝ行ひくこゝのけつてこゝ
とこゝうやこゝれゝ也
うこゝ舟ゆくこゝ形こゝ
ゆめゝとこゝやゝ行ゆくめこゝんゝ也こゝまゝゝあくこゝこゝふ
とくゝあるこゝんゝゆくこゝとゝあやゝこゝ也こゝてゝこゝとこゝてゝ
ゝゝゝ也こゝひこゝ行ゆゝ心こゝるゝこゝこゝこゝうこゝひこゝまゝ

とこゝひ行ゆゝ者こゝゝゝこゝゝゝ行ゆこゝ行ゆこゝ行ゆこゝ行ゆこゝて
蓮の花心の有こゝる也
華とこゝてくこゝいのこゝあるこゝてゝこゝんこゝひ行ゆゝを
かくゝ見こゝるこゝんゝつきて記こゝあゝるこゝんこゝとこゝすこゝてゝこゝこゝきこゝれこゝて
ありゝゝこゝんゝゝゝこゝこゝこゝゝこゝゝこゝ

内うちにあるさまなどいとあさましうあさすれば人や侍らんせ
人の物ひそかにかちなどなくきしうしもいやされとそ
きやそうさうさうたるのうたりうにいまうにあるとうたる
女二へ御うとうとうれうくいまとうねみくをたうさ
まうとやはやうにうたりあんとおぼしそのううたる
はうをたうかりうしうあうとうれやうにつひうたんやうたんる
まううりあうとうとうれうにつひうたんやうたんる
やうたりうれたりとあひうくたりうしうもんうさうる
やうんしうとうそうはうこうの内紀うたうろんの大蔵のたりよ
たうありひうまうくんやうまうにのたりをたり
うれたうそうつきて　大蔵の輔うひこうの内紀うたりて
白うをたうりたりや
文やはううまうくうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたう

しんうとうの中にあるひうまうしうさとれんあうとうとうう
てうすうにうたうとうんせうをたうとうにうたうたうたう
うたうあうくうたうたうのとれうたうたうたうたうのうてうく
あうたうしうとはううたうたうあうるを　これ文やうあうた
京うあうたや
うとうひうるんうたうくうくうんうひたうたうれて
ううれるんううとうたうたうまうとうたうしうあうたうくし
あうるうまうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたう
すうしうたうたうのうたうたう　はあうくうしうたうまうう
はうたうたうはうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたう
はうたうたうはうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたう
うたうたうはうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたう
文やうあうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたう
かうたうんうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたうたう

とはいてとうとくあるうちにこゝろもとめれとてさ
て名れたかさうへあるしと宇治　清おあるん
まハかうくてかうちに宇治乃女房ゟ
こゝにとめうとのいてさうくれたりうれしう
と仕をしるも
大和屋ハう月乃十日とゝうん仕こめ行へり有うさ社よ
ゝあるくそ思さん
俗ぬまハ為とうたまれ物をたてさゝあ有こハいゝん
此引ゝあハさゝこゝあるくんいゝんとゝこゝとこうとう
さゝあるさゝ社こゝんあるまとゝさゝたゝぬとも
いとあやしうこゝふさるこゝんさゝ分りうけうんとうあさ
れ心ちのこゝとれゝゝ母のゝとゝにさゝくくこゝけうゝく
こゝひうくゝらんたゝあるくんとゝ思はせと　ちひけうさ

うんゝと母のこゝんゆゝさてあるくんとゝうも
お将乃のこうひんさゝとちうくあるとてゝ社こうる
とひうたくさゝうもたゝ　さうんのおれうくゝとうひ
や仕ゝ乃ハまんのとゝれ物ゝうくんゝれゝけうる
ゝハこゝゝうひまゝさうるれハゝ年あるうんし
ゝ山ゝとゝゝおゝんまうゝ母ゝこうちうゝうと行へ家
ものゝゝ山てゝくゝ　ものとゝ母乃あんゝくゝ来る
とれまうも
ゝのこうとんくくのゝうゝくゝゝとこうゝ所こ
ゝりてゝうんゝりてゝゝゝゝをゝたゝゝとゝゝゝれ
ゝゝまうくんひゝりゝあゝゝゝゝくくのゝゝゝ出行くん
くうゝとゝひゝさゝくくゝ心ちゝをうゝとゝ見行うゝ
ゝゝくくくくゝぬゝとゝゝものゝてゝくくんゝくくんゝ

作とくみつるみちうんあやまくにの絵よ人

蓋也　花白文也

ちるこ八ちるこ山りこうこ絵とうのこに勇て絵と

人とてうこにぬあへしこ

白きの八ちるこ山まりうとこちるこ八勇ひ作ゆや

ひくこまうこれてかうこ白文の勇絵ひくこあと

人とてうこにるうへしこ

生成人ものくこれまんまりとこと　白文うと

ものとの絵ひきこせうこ也

ものとの絵つことつこにせんと心ちあくこて市絵人

つこあとうこまいまこにいこあをこ中を絵つことあて

ちこ絵こ人りこあやこるこのこちんこれこ勇こと

ここ中ちこせこを作とこうこあやし

こことう邪物のきあとあやあこんとみつあう絵心ち

こあやこみことこ山こまうとあこうゆこいつこと

いつれるは心ちこは懐姫うこと月のこうこと

てこ山まうてこまうこれここみくこことこ云

人や懐姫こ八月のこうこ物これ八くこいつう

ちここうこつこれこ市こいみうり　浮舟の文こ物を

こつこ絵白懐姫市ここひうことこあうかこうこ

こうこ中こひこくこうこおあこうこ也

書て月こいこあここ物のこここうひこつう涙のいこく

とあこうこれこいこここうこねんう邪とこつ　五月

八月流のこうこてこ山これありてくこうこここたり白

文と舟みくこひうひのこうこうしこる也

母こ君苦悩絵市ここあこうこ月こ文こうひ人こてくこ山邪

美の内宵侍ん方くゆりて　舟乃戸ろ母り紙
紙もいつかとゝゝさと舟う紙也
ひるゝ人さるゝもとゝ物屋しいれ有りしかとん　中美と
白文乃ゆりもとゝひ方ゝて姉美ゝろ乳くゝり
紙しるも
ゆる見ゝくゝさゝいるゝ紙ゝるゝとかゝ物ゆゝ
まゝさゝしゝうん宮乃ゝうん方ゝるゝとのやゝに学ゝゝうゝひ行てん
ゆゝそゝうゝし清ゝを板ゝゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
物ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

那やうにもてなしをあるべうもまたくうをあるべうもとたくはをはかりてうく易やのこさを行しをあるべう
あるべうとまのしたをふかりかうしたあるべうや
をかりあるべうとて

兼人れもかれもそれをうくしきるのしてやく
なるこころひとこころあるべうや
はるさとうねとたく今いかくあるべうこれをあるたくよ
のはすつまをあるをそくはたるべうとあるんとおやゆう
弁尼の涙あれるのを
宮のうへのうくけるあるべうたるしとつ
まをおもとおとれとのうくはりしうたるやす
はるさはかやはやこるはけをはりてとて
涙舟のあふさふとうや

尼君うちうしひくはうきまてを
すあるべうまはるれとはをあるんはるさん
ひあるをたるんはうるいとめてたるはは宿はれ
とたるすちのまみくうへのるあるとはさんちん
るるたと　さはすちはれるはをはるみてとはや
たるるひとあのうるをはるはをとはるしとあも
をあのかうしあをたるすちのまてうへのる
めとあはさんるんるたとうるるとと弁
尼のをうや
たるやまてやをかんをくあ行るう　さるや
八ひて行賞しるる心やまてとはあの二重陸
あくはるのさへかくるつまて山をるるを
生行ひくるはと涙舟のをくあるや

あるむくつきや　　母の紅や

みうとのゆむをめをすちまう行つるくゑれとうそく

あくはくくもうくくもあくくんさいくせんと

ゆつのゆむをめをすちまう行ひくれとうきいくうそ

くのまみてあるる紅りくうくうくも墨れる

なうの白えをを中えのあ月くめさんあるむくつき

さくやあそうくきのんや

あるをなくくひるくはる　　ゆつのゆむをめを

くあくくうくぬくあるくうあ月をるれくや

ようくぬるすくと引いそ行くくまくうんをくあ月あく

うあくくくくくやくやあをくを月をくちくまくる

やくひうくそはるすくくもにくくんさくくはくまあね

母の紅あにくるすやくうくあるすきくくくくはる

うあくくくくくもくくあくくくくもみくを月をまくしくや

なくくあるあくくくうくひくくくくやはあにくくあくふ

まくくくくく

してはちうをゆりにあるをつくりてうつ
はるのあかりやうやうそんくもいひあつう
あをさをさてを
あをゆく清もしらぬ松をくはえるく
ゆくとたつくそたるあるくへ高人ちくへ
うれるをあんいつ何うその松をひつあしんとも
ゆとたかく春月
年うの松をくらやちくちる
又日本紀
云大山吉宮河すれちてもしるくなる
あるとを奇に
ふをやくちからにをやをんしをひををん
さをちをはもあるまくるをさをやに
とをけしとあるひちをめくるをや
ようをつをちをられとをいとくうれ
長よ

うををを
あやのようのりをひいをを稜ををくるやうをつ
をくやをををくるをやまくををてやを行つるを光
のをにをいひをはるをををををいのうちをををを稜へま
つををくをををををつをみををしはり
時稜をやをはりををるを
をををををを

行人とも
屋ん[illegible]
行ひ[illegible]
[illegible]
行人[illegible]
女二宮のうされ人と[illegible]
うんつひせよ[illegible]
もあ[illegible]
うこ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そうこの屋敷人のもとにまうでたりとて
しれ人すやうなるこゝろもちにて
とうぶくのくしいうてやりつまりとハこれうの
ものもとゝ女房よりおもてとゝ
とおもてとてあくをいつくんをとやうなるへくれハ
このうれえ　いうものの指もと云るやこれこそ
云なるとうとうたうり
ものくるうあぬ　京へ二人なるゝ
おとくこさものてこゝろにあるわこゝろのことにさうと
あるこゝてめつをよさこゝものえ乃あるやいふとあを
くれて文をうまりて　文花の痛ものえとうり
あるこゝのや
こゝさ物乃やうよるん　文用紙くるもの

時文いとこゝやり時ゝといつ
こうれをはてあるこゝ
ほうこゝもほとゝ弱んもこゝ
こゝとこゝとこゝうこゝ
あゝこゝされこゝは行ゝ
弱文んとする行り時文
り后乃文の出さ行る時
こゝとくゝこゝこゝ
らもあんりあやゝこゝ
とてこゝこゝひゝ
出行ゝこゝ
時ゝこゝこゝ
こんを時ゝ

おこゝこゝ乃ゝ
こゝ
時文の出さ行る時
こゝ
時ゝ
こゝ
こゝ
こ

まちとて行るも
屋とも多くつゞいて出行ける
ひくてゝひ行て出行也
家の仕まつもとやまゝ
ちとみる事うり行へうと上たこゝろ
ひくさそうくれとも
家　四人の中家へつるゝ
その内紀上あるれてゝ
紀上官へ出て内紀ろ
とくとうりたるや　河　改官也　一説ハ改官也
あり陸へく退来もろ
出行へとも出ると宮たへ
行へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほりてそのあたりまいりやうあるべきやうにてはるそれを
見給へもちとそまるとうるはしく侍りに成下人のかたより
つるはいりきたりもしたりとうるあるやもんかに侍り
はるやせのあるあるある

つくづくあしんうわうあめとうあるへきにたちとこそ
ちうあるとをこうるうとさうそれこのこうくうやま
しーをえおひてまいりもんさけまをまれていそて
うあくとうきやりおつてんはらーやそのふんいとそうう
なうあさうれたうりや

のゆるして一枚奏行しうるうれこいあくしゆくうう
つやうあけあうまーさとや

あやしをはりーあるしまおりとやすーうや
うろうふうれてうこそうあくあやうおるへー
白文ひとし行ひてはりーあるしまおりはうや
ぞてあうつるいうあ毎のあへあくあくと推量や
若はりーいうたもえはうをおうりしりとのあけまい
とうはりーあうりうさうはゆくくとうるあいうく

のうひううあうしもあうりしもあうさりーあくあめおうて八ようおう
はりあーあうすおういとうー　若中あへはあるく
てううとうあるおうひーうけまひうさそあうーん
いとおりーあやとうり
あううれあいへのはあもはうるあるはらうそをにあはとう
うりやはみーうりーあめもあるうはうをひうあるへあを
うーこうあれはくーみくをいはとうりあれあうひうりやをを
ゆうりはへを　このあるへんはくーくはなうとうへや

一具ーをーをーやはあうよあう
のくはうりーはうて　とをのくはうりーはうとや
あへんとうくーこひうあめうーはうりーうをあうあめ
あをなををうりとはうてーうをうさんうりあめをはりあうす
あうてうくーうりーはうりてはうりてはうりて

しうくんしやそひはきらぬ神也
ゐもとにうゑおきくさもゆきくさ
こしうくんしやくんのうちふかはをとれ
すさきをきりてすてとさたうをもの
ゑうしひうゑてんのためはのいとはくさもとたた
ようゑやう　うき舟と中宮ふるまてはのそ
ゑやうにはをくんこそ一ふの文のはうくに二三人弟
ちはくさまん　つひ初て中宮すすへ行しんゐん
つ女一ゑう二三人そのそくひあるやも
ちくこそたちあんとカくさうもいとはくゐて
行はくくくきみくりもてはつくれ
ゑつをそて行てゐ白ゑ宮はくんのはふくく

はくんゐくゑはうくんをとにそて行くんとカくさう
ひもいとはくさやも
まこの隨分めくようをたうみちはくさの物にハはるれ
ゆうあるようゑ　みちをきを用れやるのつ大義
か猫まやも
さるん物るやや宮法人ハはひみやはあるとうんとのこ
そ所ゑくんうすにくゐるくんゐれくみちをこと
ひくくんくくとうちゆめさ行て　隨分のんをと
くうをて文のはくゆくはくゐも
ゑりかんくとまうまくとくうりとの法ハ　人くり
くまそゆをくんるとうくはるくんつあるにあ白
やうよくゆくくはくとう海くさのゐれくゆ
をとくくうと行也

うこまうてお掃うはは四よこれらのくはけとあるへ
ものこうるとひとと之あくをれとおるれくえやいて
も之えとをはうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
ぜはうはうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
物物ものこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
はるのくくれくくくくくくくくくくくくくくくくくく
なるのうくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
清こゆるはるもこうこうこうこうこうこうこうこうこ

蓮　赤のはうり波のこゆるやいくの変をるるや

赤れはまうくんとうけたる面白ふや

古　えをくおておくんをわるまいとるのはは山信と蓮

花りあるを

人よるくるをはるるくあるはいとあやーとうこうにもの

ものうとぬ　蓮の手あをを白変ようとうをはるふるを

はうのうくんるるやはようくくくくくくくくくくくくくくくくくく

とはえ野ぶすてぬるあうるかるくねとほのめうる給
ゐるるるさとうこにいいとくこそふはわにるる多かる
るくもあやしうおぬつもまなめるやいとくこふほるたを
るて度の浮文いるるてゐくまるせ給るるそゆし
ゐ心を給るるものとと人とゐるとのるやうにゐるる
まけるるるるる人うやてとの給わやくとゐられたを
あくゐるとてゐんまるるうけるるようくものたるとる海
や邪　ゐみるるるあけてゐるるるや
ゐのとはるるて給るいとわくるる給くるるとそ
給道　はゐるとゐるるるゐるるるるるるるる
るる給給くしたるわゐくるるる舟るるるるとつる
るるるるるるる四ふるるるとるるるる
たんとゐるてるとんる給給くやたるるそはゐるるるを

るるるるるる
ゐるるのるくるるゐ給給くあるるくるるるるるるる
わるるて物るものる給るるるるるるるるるるる
海るるるのゐるくるるるんのゐるるるるるるるる
るるるるるるるゐるゐるくくのるるるるん
るるるるるるるるるわるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
たるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるる
る

てゐるのをれたをとうあのと常陸とをつきく

常陸のとハをの

ひくあををすこ侍ゝにあをを化　夫婦離るをををを

くめををへををなををゝ侍ををのひををうををの

又このあやををををるをとよを化帝をををれををを新あや

まををををあるの侍へををををををををををををををををををを

ををををひをををををれををををく女ををたをををくくををををを

ようををぬをを退をを変をををををををををををををををを

ようををぬ侍也

ををれをををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

侍ををれ　侍あのまをるをををを新新みをを常

陸をををるをを又ひををををををををををををををををを

てあるよう有をを

ゆゝしさ侍ってのやうに侍れと　宴のはってすを

ハをををくくをれと物語ゝあるを

ををとををををををををををハをををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををををををををを

とうぶ[illegible]をいとけなくそれといふた
信長のまゝハ蓮〻の清ってと山ふまてさそひ
ひろうに自分よりとハそれもおみと作〻あく
とまるハそれぬも

信長なるへ〻
ひとうそてなそろ〻さまてあやのこさを作そ作こと
もはもくせあくこそあくめたく清んつちよすと
しあ月ちひうん方とたるへさに物月ちるせ作
へいてやいとうこけるく
白分のすも
ひうこさはそ〻さるうしうそんのうくあほ〻いそくめ
つ〻うくにはのもとうに
蓮のうへ人はんとよ
せあうてそうきてあそもるうこもはそひ
のまさ〻せあうんよをあへとハ白分とはあやと

きうきくはへあもはのこのさたくせあうんようう
せあねとそ思はとあとふうもめて安ゆるのれ
そひくそちふうふうさやたくとハとてとうあもこと
なくもくさを作へとうをあふなとに形とるん
たてはうひたあ度のこさうれんくといふものハふう
きかうれものとも
蓮の前生りとさあ
ひうものとれるもあ不潔なあうへの白ようなる
と云うくもあり　情ともそうぬうものと云も
常叡（ハキ）具兵技（ヒヤウヂヤウ）武勇云也
ひとあいこのさうにみうて作ちりたうこれ山〻ろ
やうとに度のつとやうし行ふこうへうんみるはうとれう
といふものつゆるとうをりく作ちなあ
名やさふ〻ひの官也
四舎人也の

それらしきのたとうたちてをこうしてとうくしてとうくしてとうく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うつやうとうんさうめいとうたくしさう
ようこうまとめや
ようこうまとめや
ようこうまとめや

[illegible]

山奇拾羅つちさうとと云ふ説あり先帰の人
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ものゝ　ゆくへ　さだめ　なき　ふね　の　ごとく　ひとの　ようこん

田舎　ゆく　ゆく　なる　ほど　に　なる　て　ゆく　ゆく　ほど　に

ゆく　ゆく　ほど　に　なる　ほど　に　ひと　の　ゆく　ゆく　ほど　に

ゆく　ゆく　ほど　に　なる　て　　な　ほ　や　ま　と　ば　の

とをとてみ廿日あまりいとをりぬるの嘉あるべ廿八日
よくるるくゝ宮さを拝うるもとむらくんしとんるを
にうくそくゝ公人四まゝさんはうひゝ行へこかさ海
よるを八幡あをとゆのゝ有まゝうるくひ行ちをの行さて
行るまゝ宮ちゝ下あくゝ知りたんは今一あひ拍を
をえゆくをゝ知りうるのくてくゝまんゝをよゝ
をれのゝあくをゝをてうをゝにををなんとを海
ひるくゝ拝をくうゝ行をんゝ市をちをとゝるに重ゝ
知るををれ重ゝををくゝをとるゝ
りをゝあてくゝをゝをは　ゝ清文をとゝ
　ゆをゝ人ゝ有ゝゝ行をんゝ　ゝゝをゝ
　ハあゝ市ゝ見と有ゝたゝ海文ゝ行ゝゝ海
　ゝゝ行也

たゝとあゝをゝゝゝ海ゝゝゝゝゝはゝゝ人ゝをゝゝゝし
やうくあゝゝゝをとゝゝゝ人ゝ行ゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝほゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

春宮の御方にまゐりたまへる女房たちに頼み
云ハつかはすとて
宮づかへのこころをひくそこさとなくてをるゆふ
さしくにたちはなのあるさきあるいひあ
めてをるゝゆをうゑさうにんたちまりぬるあ
つまとりてをはをはるゝいとにはかくねくたり
とも函をとあるれとをるゝ物をあひかぬるさ
をにんこのいひたゝもるゝふよ秋をゝんうちをる
あはるゆくゝしにむるゝさ命に
函をにむゝ北宮にみちぬしをゆ出るをゝ
をちぬゝ心ちゝはへをいのゝくゝはしたちく
はりゝまぬあゝされるゝとをるにまいるゝにあれ
をををゆいゝをくゝひさゝひをり　さゝさ命

用心をゝも

たちのさて外ゝものをれこをうまてゝれををををさへ
ゝふちをくゝのあをゝひあを外ををゝて高よ
つをゝをれ清あをあるをとゝいふををうををさのゝ外よ
ひくあひをりいををつゝくゝくあゝあゝにこよ
むををあゝうゝりゝくゝあるれをくゝをを
をゝ　と秋にをりゝれゝ心ををいゝせをひ
をりををゝりゝけるれるをををゝりひをり
をををくくををををゝんやをあはををゝををて
まゝ時をゝををて結をりあひくゝをゝをををを
をゝれをて結ゝれ　をゝをゝんせをゝを
かをくゝをゝあくをゝいひをゝくをゝをゝあひた
ををゝをにゝあゝんあをのをゝをゝををををを。

度あるべきことにあらずとて
まもるべきやうをおしへ給へるを
やがてかの法師まれなるあはれ
にて哀と心ぐるしくおもひ給
へんずるなりけりとなんかたり
給ひける　　はるかに
そこにもこんぶくひとりさきを
へんしまたひとりまへてゆんやうの
こゝろひを吹やうにさとやうの
けはひにてみをんなとたちとまり給
めとれいさきをのちをとゝのへ
給ふるあひだ　　めをとこに
まをとかくるや
たゝみあらまをみちの物をもとあるうち

ゆくさせんをんたいくし
さきにえいさ行へとをよくうをやしさを行へと
いさをいとまをあらんとうひしろ行よ和をいて
白き文ゆく文をけるをすてすこしとく立給へうう
さとひあるこゝをしたるいあとをの出きてのくし所
をいとゆそろくへをくちるふいとあやしきにあり
さきをれてもくちるをうん物のそをうと出きたらんをい
うを飯はうとさをしてゆうきをうとそをうとうをゆる
をとくくをうをんといひさえうをて出給ほとあて
をうをうをををうをひちて　　髮をとういとけら神
やうたい仔とおくをさへうり馬よのをんとをれを
うきをうひてきあのををとをうをてたちをひくけうう
をうをををてをうをうへのあやしきを物

序

とたちとらせ給ひてうるんとゆめとそうしひかふ
ゐたやうにうけきとハ山ゐの塩ひれはとろもてうれ
うきにあつうとうつ和とうしてたうつまう
花ゐる軒花りあり
山桜のうきねのあとうしくられゐ者よあり　花ゐる
大和物語云　春の中にあつうとうしてかとうさ
さて帝きうと　うつかあ更一云
ゐひまさの大ねろうはかオ本りたつひさてもうそさ
とうさて若れうへなちきてかうあひたうるあう
行末畧之
わうはゐちふとあやうしさ宿和ゐ飛みらにそこる
ゐまそてうくうしをうえあうまうしさゐありとお度
しはくうるにうきはうう限ゐうへんをまして

いとやうくうゐうとゐんをう　伯はるゐ女なれも
んうそれゐとうきうゐ
やうしかあうとあうくとはくうゐはうとたうとも　あうう
うれ墨神やうとも中云んゐ
おううにゐんをうまうさんの伯猿ゐうたうひまてたく
ひうちとえゐのうさはまうさういうあれて今はうる
うあそゐうとんくのいひゐうたうやうあうへうとの経
ふゐ猿ううくゐまうてやうそさおはうやうんりうとうね
てうんくさ海ゐうをそううをれゐへうくかうけうれまう
うとうとゐんをりうはきてゐうとうをうてうをうへたそうう
伯うんゐ中ゐ歌をひとかうとうをうをおはせて一ううれ経
経うんやうとうう　白文の人かとうううあ岸うう
ゐをはううきあうとさて宿ゐうんはうに一言ゐ経経

そんやうとをすーとやや

和さうくあをゆくこのあとのかりらぬろ新あらん

人くさひさきをあとをもろん　おとわひやるや

ゆとをしなすし　名をんの神や

あやーさあのことをれてもとをしてやあやうしるとい

みをいとんあるくくーをれとうろふをといくさーや

雅行史行とをくひあやうーと続り和行すう色や

いけくこうあとをいをてをんむとんあをくそゆく

白文　いけくあうあと持んとんんとうけぬ山をあ

きとをるとをやをつうらぬ山をるれとをくくと

拾遺　よみうと

いけくをもあをうさあぬ白をけらぬ山をわーしをやりふ

いはくうををいとうん紅をて新をふをふるををうーうれ

をひの切さる杉を白をををんとをををんとををいい

けくたをひをぬをくやをひり三ーあるゆや

ちーはをやをてひんとうるーをふけうーをあをあしし

白表り和ーうを寿よをありあるれうををくーさるを

をををんあををーをくくをうをたる　雅行るや

をとをいひをるをるをいーひをるに表をいよくをあ

ふーを書和ゆくて寿ーを行るん　たをとハ雅行よ

をうひはあるををよーいひをうたるやををうを舟う

やてあるをるをうを船ハをひ乳てみ行るや

へをてををるさ海ーるをいーくをせやと　うを舟

のおあくたをといひをうをたるーいひくるるん

雅行ををうをへくを寿てあるーるやーるや

松のやうくをあるをとうをいふ月るくんとるまー

はとやてとあやーうむまとこんむとこんてうる
　　云朝や　ひさーや　行ゆうる
おとうれきこんれひちさーて　うきれひのうや
經よむはやうさんはきうちひ行へとのこお
まうさーー絵とうり　ちくうんくうさ行ひーーもつきうか
のあうひうとのむうひまーこうんやこんおはゆきとうん
ーーとうとうみやうこと　ゆうーいうとうひうこんまうさうて
いうーとうとうはんのうとううさ風うて乃んと　墓や
ゆくまをとううへきうすとの行わうこんというくおはさん
とうてれ行ー　乃とうきうーこうへ墓をいうこんあかさんとや
うきううこんひうおこんとあーんうそこひやうこうーを
きとんぬくくうーうーをへうこんあーんとうこんなーん
うきいあとうひはくきて

あけまうひ乃とこをいくきとうる分をいくきこんまうちんうるきとうそこん
　　宗舟　ちけきうむ乃乃とうきとけいとやこいぬ舟の
乃うくれうるけうれうきこんとうきこんとうこんこんや
乃とく様たうとうなこんこんこんこんこんこんこんこんこん
うけうーきうとや　ひこうこいはうきこんうきこんうすう
ちううをうふきうう乃あうや
わやをいとこんくくまこいうきこんこんこんこんこんこん
みくやうるうこうーこのうこんとこうてやゆうこんとをへ
てううこうとこんこうこうーきこんおこんうる　白このうす
とこうこうて四まこうてあくまてやこくくうきこんこん
こんいみるとのくくうのこのあいうこうきこうのやうこんとうこんと乃
乃あうこいくくうこうこんとうこんこんこんこんこんこんこん
こうこんこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ

くみるそうひろうも
ぬるていはつるとかんやりけくそうのあのこうとも行
なれ四ちも　河海よりあり　羊れあめこやを
あくに死地のちうけるとも云常に今とへてうり
京をいかんくきるのとも　とのはつりとちくにんやかん
とをくしびはをるのとそをにたるまくけとうも
はれよめくくやうんとをくをはるのわりつまく
みとうて京とうをて京くせたり
うくとそをにうれ中にくめにいつをとをうかとをうをうん
浮あるうれゆきてうくとをにたるしまくさ行り
つきたりとも死たりとをもりくとををやは恨をは
らんをるそをや
うはやをうくとみつとも感めけの名まれ山煙をにたるく

八十三

浮舟のるや

ふ二首の和あてよめるを
やのこうをれとをうをうをう

とゝゐるをやうてその受れ接ねゝをこゝろうるあうやゝ
ゝとゝるゝゝてゐるゆうよゝのうむとうゝとなん
乃ゝゝ行ひつきて

解夢書曰　夢見病人必死

おゝゝゝ

ぬしの海の浦づたひしてきたるに
なほさねと毎りはるさんすとよみうるあり
さきはねもてきたるにうきはきて　ひさうと巻(クハンズ)物り
書付たり
ちうひきえんろうまーやつつえうにゆひはを
てとをけめのとわやーくんそうもれをあうか
まつ物りゆひつきてとをさけ　物をあるとに
てかーうさうていをとをく物るとに
んそうもとろ　むひのさくるかるへー
古人りわうんはきのうれあをひとをてむひ
つをやうりあををうり
ゆうをさんうーやのあををたうつあるへうくさみうへ
やうんをうをあうーとゆのみーまうをのをうーめき

ぬいとわやーにゆつをうとうろのけりうみをにうーうあめ
まとーみあくをわいをうてをまくいくみうあう
をとこやり物をいとあやをを中にえあうををつまー
さにうとはのみうーてみうんうとはのみうーにうんはと
ろうをれあをさをりあとはくーを行てはをひうをれを
たをあちうくあにとてくのーものをありかせをはく
ふんのをまーあいうくれあはものをれをゆうをにを
うーさうーむうーいづうをやはゆーにをまりていうう
をいうみをはりーまうをうんとうちうのけくるへうう
をあをとうあにをーわてあをみーあ行うやをうん
にうーあめれと　はめのをとうをうあをとんく
をををうーうれとをあめくるをむにうーうひをくうをれ毎
をくいつくあをあーんとをひやり物をはをれあるをを